（自民隆盛会：石川県小松市）

自動運転バスについて

【日時】令和６年７月 23 日　13 時 30 分～16 時 00 分
【場所】Ｋｏｍａｔｓｕ九

１．視察地の概要

昭和 15 年に２町８村が合併して市制施行し、小松市が誕生した。さらに昭和 30 年、昭和 31 年の合計９村が編入し、現在の市域となった。現在の人口は約 10 万人。名産品は九谷焼が世界的にも有名である。他にも小松うどんや塩焼きそばなどがある。アクセスは小松空港とあわせて北陸新幹線の開業により、より利便性が向上した。ふるさと納税にも力をいれている。

小松駅にて

２．調査事項の概要

北陸新幹線の開業で、小松空港と小松駅の快適かつスムーズなアクセスが必要となった。

また、交通の安定化を進める必要もあり、自動運転バスを導入した。自動運転の技術が日に日に進む中、当市においても公共交通の安定化と将来を見据えた公共交通のあり方を改めて考える必要があると考え、参考となる小松市を視察した。

３．主な質疑とその回答

Ｑ．自動運転バスの導入の経緯は
Ａ．駅と空港のアクセス向上と安定的な公共交通の確立のため。

Ｑ．事業者選定に関する方法は。
Ａ．市内に大手自動車企業があり、相談する中で現在事業を行っている企業を紹介いただいた。また、国、県、大学などと協議会を組織し、進めた。

Ｑ．自動運転バスの導入経費はどれくらいか。
Ａ．時期や自治体によって金額が違うと思うが、小松市では試験運行の令和５年で約３億 1500 万円。内閣府のデジタル田園都市国家構想補助金等を活用。バス自体は１台約 7500 万円で、２台所有。

Ｑ．現在の課題は
Ａ．車線変更や右折が技術的に高度であるため、スムーズにいかないことがある。

Ｑ．今後の展開は
Ａ．レベル２での運転であるので、レベル４へ早期に実現したい。また、車両の大型化や障害者にもやさしい自動運転バスを目指したい。

（自民隆盛会：石川県小松市）

４． 所見・西尾市政への反映に向けた課題

視察中の様子

・西尾市において、路線バスの充実は将来の超高齢化社会でのサービスの提供を考える中で最も解決すべき課題の一つである。改善策の一つとして自動運転バスは魅力的な施策である。にしがま線の将来のあり方や地域交通の安定的な提供のためにはいつかは必要になると思う。まだ、課題は多いが技術革新の早いため、早期の検討が必要と考える。

・運転手不足の深刻化が予想される中、自動運転バスの導入は将来必ず必要になる。現段階ではまだ課題があるが、技術革新のスピードは加速していく。導入に向けた準備・情報の取得は常にしておく必要がある。

・まだ、自動運転バスを導入している自治体は少ないが、このことを逆手に取って観光の一つととらえて小松市は導入されている。実際にわざわざ自動運転バスに乗るために来られる方も少なくないと聞いた。西尾市の観光の一つとしても魅力が出せるのではないかと考える。

（自民隆盛会：富山県富山市）

「公共交通を軸とした拠点集中型コンパクトなまちづくり」について

【日時】令和６年７月 24 日　10 時 00 分～11 時 30 分
【場所】富山市役所

１．視察地の概要

富山市は、県のほぼ中央から南東部分を占め、北には富山湾東には雄大な立山連峰、西には丘陵・山村地帯が連なり、南は豊かな田園風景や森林が広がっている。現在では日本海側有数の工業都市として発展してきた。平成 17 年には近隣町村と合併し、新しい「富山市」が誕生した。同じ年には中核市に移行し、地方基幹都市としての役割を果たしている。

人口　　約 41 万人（富山県全体の約４割）
面積　　約 1,200 ㎢（富山県全体の約３割）

市役所玄関にて

２．調査事項の概要

富山市の課題として「人口減少と超高齢化」、「過度な自動車依存による公共交通の衰退」などがあった。そこで、都市のかたちの大胆な変革が必要と考え、将来ビジョンとして「コンパクトシティ」が誕生した。富山型コンパクトシティでは、一極集中ではなく、多極分散型のコンパクトシティを目指し、「公共交通の活性化」と「誘導的手法」を基本とした現在の「コンパクト＋ネットワーク」に合致した進め方をしている。

【まちづくりの進め方】

① 規制強化ではなく、誘導的手法が基本
② 市民がまちなか居住か郊外居住かを選択できるようにする。
③ 公共交通の活性化によるコンパクトなまちづくりを推進
④ 地域拠点の整備により全市的にコンパクトなまちづくりを推進

コンパクトシティ施策の３本柱

・公共交通の活性化…富山ライトレール、市内電車環状線化、路面電車南北接続など
・公共交通沿線地区への居住誘導…住宅供給や新築・購入を支援
・中心市街地の活性化…グランドプラザ、ＴＯＹＡＭＡキラリ、トランジットモール社会実験

３．主な質疑とその回答

Ｑ．コンパクトシティを目指した主な理由は。
Ａ．＜背景＞①人口減少・少子高齢化の進行　　②市街地の拡大
＜要因＞富山市民の高い戸建て志向、高い自動車分担率、平坦な地形特性など
＜課題＞車に過度に依存した生活、割高な都市管理コスト、中心市街地の衰退など
Ｑ．コンパクトシティを進める中、はじめに取り組んだ施策は。
Ａ．ＪＲ富山港線の路面電車化事業
Ｑ．コンパクトシティの取り組みでのメリット、デメリットは。
Ａ．＜メリット＞　　・都市経営の健全化　　・人と人の出会いが増える
＜デメリット＞　・郊外部に住む市民の理解

（自民隆盛会：富山県富山市）

Q．「歩いて暮らせるまち」を目指してみえるが、ＬＲＴネットワークをどのように検討したか。

A．地方都市としては恵まれた公共交通を活かし、「路面電車」の利便性や快適性などを向上させるため、ＬＲＴを導入。

平成 17 年３月「富山市総合的都市交通体系マスタープラン」を策定。

⇒富山ライトレール、市内電車環状線化、富山駅高架下での南北接続。

令和２年３月の南北接続事業によって、全長約 15 ㎞のＬＲＴネットワークを構築した。

Q．富山市が目指す「お団子と串の都市構造」とはどのようなことか。

A．主要な公共交通軸を串とし、駅やバス亭等の徒歩圏（駅などは半径 500m、バス停は半径 300m）をお団子に見立てて、居住誘導を促す多極分散型の都市構造

お団子（徒歩圏）の中では、徒歩や自転車を日常的に利用し、お団子間は便利な公共交通で移動することによって、車が自由に使えなくても、生活に必要なサービスが享受できるまちづくりを目指す。

Q．コンパクトシティからスマートシティへの取り組みをなぜ検討されたか。

A．今後見込まれる新たな課題としては次の４点がある。

・郊外部に居住する市民の暮らしの満足度の低さ
・本格的な人口減少と地域コミュニティの衰退
・複雑化・多様化する地域問題
・少子高齢化に起因する自治体の財政余力の低下

こうした市民や地域の課題をデジタル技術・データの利活用により解決するスマートシティ政策に取り組むことで、市民生活の質や利便性の向上や地域特性に応じた市内全体の均衡ある発展を目指した。結果、コンパクトシティ政策を補完、融合するためのスマートシティ政策に取り組んで、市民生活の質の向上を図ることとした。

４．所見・西尾市政への反映に向けた課題

視察中の様子

・富山市では、「コンパクトなまちづくり」は地域性や既存の公共交通を活かし、今ある課題を解決するためのライフスタイルの改革と考え進められていた。富山式コンパクトシティは、一極集中ではなく、多極分散型で西尾市にも活かせるのではないかと考える。こうした改革の中で、市民の声を聞き、さらに深化させるためスマートシティという考え方も取り入れている。デジタル化は、西尾市が今後取り組んでいくべきもので、その方向性を示してくれている。

・過疎化や市街地の空洞化はどこの自治体でも課題であり、西尾市も同様である。富山市のような鉄道が充実している状況は当市にはないが、ＬＲＴネットワークの形成や上下分離方式によるセントラムの整備は公共交通を充実させつつ中心市街地の活性化などの寄与できる参考になる施策だと思う。自動運転バスの導入の検討を含め、交通弱者にやさしいまちづくりを願う。

・将来のことを見据えれば、公共交通を軸にまちづくりを考えるのは必須であると思う。市街地以外に住んでいても安心して生活できる環境を作るために、富山市の施策は参考になった。

（自民隆盛会：石川県かほく市）

あそびの森「かほっくる」について

【日時】令和６年７月 25 日㈭　午前９時 30 分～11 時
【場所】石川県かほく市役所にて説明、
「かほっくる」にて現地視察

１．視察地の概要

かほく市は、石川県のほぼ中央に位置し、金沢市から 20 キロメートル圏内にあり、車で約 20 分の通勤圏内にあります。
人口は約 34,000 人で、面積は約 64ｋ㎡。西には風光明媚な日本海を有し、緑豊かな自然環境を有しています。

かほく市役所前にて

２．調査事項の概要

昨今の猛暑の影響で子どもたちが屋外で遊ぶことが難しいという中で子どもの屋内運動施設がほしいという声も聞いております。

現在、計画中の生涯学習施設内に子どもの遊び場が計画されているということを聞いておりますので、冬の悪天候や夏の炎天下でも思い切り遊べる屋内運動施設の視察となりました。

３.主な質疑とその回答

Ｑ.「かほっくる」の建設経緯はどのようか。

Ａ．既存の体育館の老朽化が進んでおり、元々長寿命化計画があった。
夏・冬は外で遊べないことが多くなっており、（冬は北陸特有の気候）小さな子」を持つ保護者から天候を気にすることなく遊べる屋内施設の設置要望があり整備となった。
地方創生拠点整備交付金の活用が可能になったため事業化することになった。

Ｑ.「かほっくる」の詳細はどのようか。

Ａ．旧金津体育館を整備改修した施設。鉄筋コンクリート２階建、延べ床面積 1694.44 ㎡

Ｑ．運営体制はどのようですか。

Ａ．特定非営利活動法人クラブパレットによる指定管理運営、指定管理上の職員数は５人（うち１名は保育士資格）

Ｑ．建設費と維持管理費などの年間予算はどのようか。

Ａ．建設費は約 623,956 千円
国：162,500 千円（地方創生整備交付金）
起債：162,500 千円（一般補助施設等整備事業債）
起債：199,400 千円（公共施設等適用管理推進事業債）
市町：99,556 千円
令和６年度の指定管理料は 26,000 千円

（自民隆盛会：石川県かほく市）

Ｑ．イベントなど市民に利用していただける工夫はどのようにされたか。

Ａ．指定管理者が実施する自主事業ではアンケート結果を踏まえ実施したイベントあり、子どもが興味をひく事業の開催を心がけている。周知方法としては、チラシ配布、ＷｅｂやＳＮＳを活用している。

Ｑ．市民の声や要望はどのようなものがあるか。

Ａ．施設及びスタッフに対するアンケートでは、好意的な意見が多く、ほぼ全員がまた来たいとの回答であった。ホームページ上で混雑状況がわかればいい、回数券を発行してほしいとの要望があった。

Ｑ．現在の課題はどのようなものがあるか。

Ａ．地元以外の方にとって場所がわかりにくいことから、ナビで場所を検索した際に表示される交通ルートが地元集落を通るルートであったため、地域から苦情がでた。
これからの課題として、「かほっくる」の来館者はリピーターが多いこともあり、マンネリ化しないよう変化を考えていかなければならない。

４.所見・西尾市政への反映に向けた課題

・かほく市は、約 34,000 人の街でこのような大きな施設が整備されていることに驚かされました。

・「光と風と音を感じる公園」というコンセプトも素晴らしいと感じました。

・当日、「かほっくる」では夏休みということもあり、たいへん多くの子どもたちが遊びに来ていたのが印象的だった。また、全利用者の半分以上が市外からの利用者ということにも驚かされました。

視察中の様子

・県内他市においてもこのような子どもの屋内運動施設が着々とできていることを聞いているので西尾市においても早急に施設を整備してほしいと考えます。

・現在、計画中の生涯学習センターにおいて子どもの屋内運動施設が整備されると聞いておりますが、もう少し広いスペースでの屋内運動施設を整備してほしい。

・今回、伺った「かほっくる」では隣に隣接された建物で食事ができ、また、カフェスペースもあり、ぜひ取り入れていただけることを期待したいと思います。

収支報告

項　目	支出金額	備　考
調査研究費	２３６，０７０円	旅費　２２８，２１０円 手土産代（送料込）　７，８６０円
資料作成費	円	
資料購入費	円	
事務費	円	
計	２３６，０７０円	